

アサガオ「団十郎」の短日処理時期が開花期に及ぼす影響

上原恵美

(江戸川分場)

【要 約】「団十郎」を入谷朝顔市に向けて短日処理3日間する場合は、出荷4週間前に実施する。

【目 的】

入谷朝顔市（7月6～8日開催）に向けて計画生産を行うために、江戸川区のアサガオ生産農家は朝顔市の5週間前ごろ3日間の短日処理を行っている。しかしながら、入谷朝顔市に向けた「団十郎」の生産について、最適な短日処理方法は明らかにされていない。そこで、本試験では慣行の播種・栽培方法での短日処理時期と開花期の関連性を明らかにする。

【方 法】

「団十郎、暁の露（対照）」の2品種を供試した。2013年4月25日に200穴セルトレイに播種し、5月7日に6寸深鉢へ1株/鉢で定植した。鉢用土は、江戸川分場標準用土（赤土：腐葉土：無調整ピートモス＝3：1：1＝容積比）を使用した。基肥として化成肥料（マグアンプK中粒）5kg/m³、過リン酸石灰3kg/m³を施用した。追肥は随時、液肥（ハイポネックス15-30-15、1000倍）を施用した。短日処理は、暗幕操作による16:30～8:30（暗期16時間）のシェードを3日間連続処理し、処理期間の異なる6区（表1）を設けた。なお、主茎誘引の行灯仕立てとし、つる巻きと側枝摘除は適宜行った。

【成果の概要】

1. 両品種とも出荷7～4週間前の短日処理は、無処理区よりも初花着生節位が低く、開花日も早くなった。しかし、8週間前の処理は「暁の露」では効果がなかった（図1）。
2. 主茎先端着蕾によるいわゆる芯止まりの発生株率は、両品種とも無処理区と8週間前区では発生がなかった。「団十郎」は出荷4週間前区も発生しなかった（図2）。
3. 短日処理時期が節数および主茎長に及ぼす影響は、両品種とも7週間前処理区で最も節数は少なく、主茎長も短くなった。節数の増加に伴い、主茎長も長くなった（図3）。
4. 暁の露の期間別開花数は、6週間前区が6月26日～30日、7週間前区は6月21日～25日に開花数が多くなったが、他区は7月1日～5日に多くなった（図4）。
5. 団十郎の期間別開花数は、8週間前区では全期間を通して開花したが、7週間前区は6月16日～20日、6週間前区は6月21日～25日、無処理と5、4週間前区は6月26日～30日に開花が多くなった（図5）。
6. まとめ：団十郎は8週間前（子葉時）でも短日処理の影響を受けるが、7、6、5週間前の処理では主茎先端着蕾株が発生し、主茎長が短くなる。無処理でも朝顔市には開花しているが、3日間の短日処理をする場合は、慣行の5週間前より遅い4週間前の処理でよい。
7. 留意点：短日処理期間の検討が必要である。「団十郎」は短日処理の影響を受けやすいので、宅配などでダンボールに詰めて出荷する場合は、注意を要する。

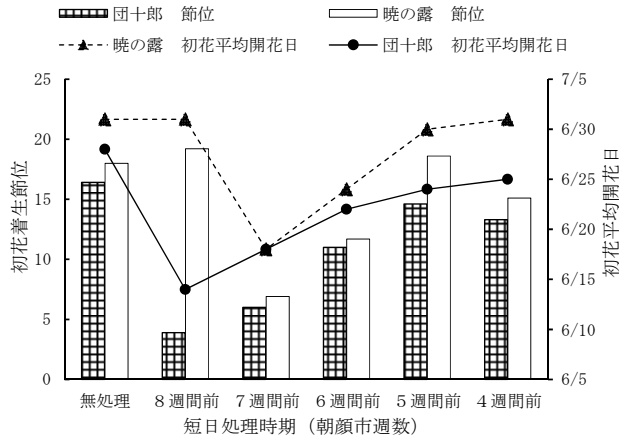


図1 処理時期別の初花着生節位と初花平均開花日

表1 短日処理区の設定

処理区	実施期間
① 無処理区	—
② 8週間前区 (子葉期)	5/7~5/10
③ 7週間前区	5/15~5/18
④ 6週間前区	5/22~5/25
⑤ 5週間前区	5/29~6/1
⑥ 4週間前区	6/5~6/8

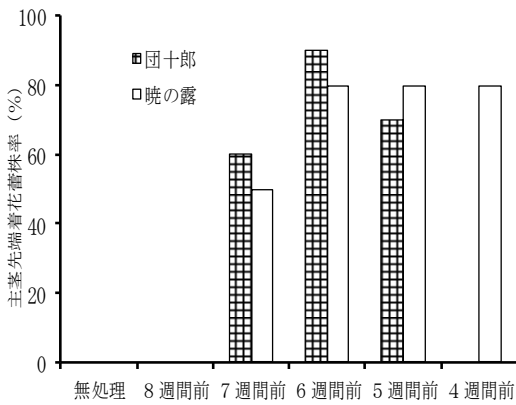


図2 短日処理時期別の主茎先端着花蕾株率

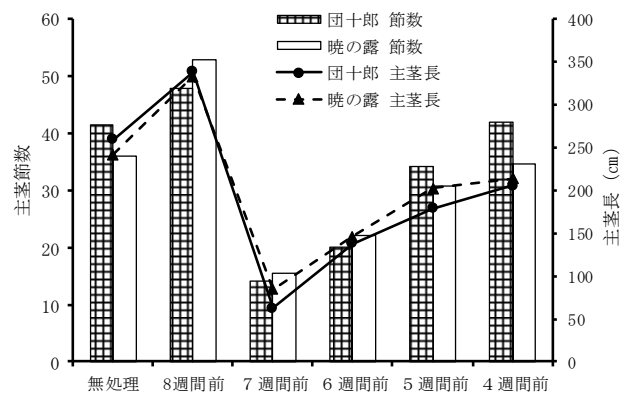


図3 短日処理時期が節数および主茎長に及ぼす影響

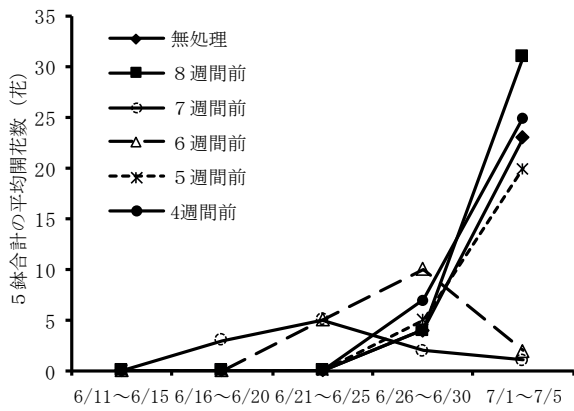


図4 暁の露の期間別開花数の推移

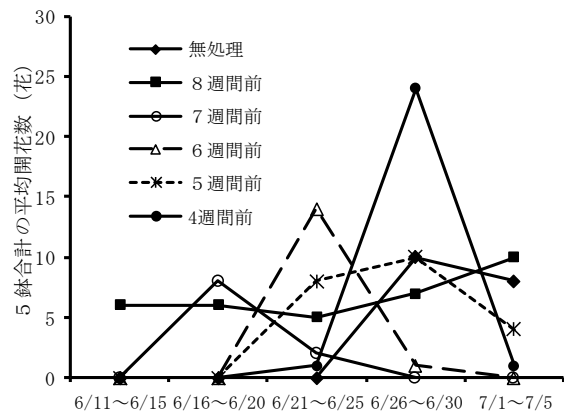


図5 団十郎の期間別開花数の推移